

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境					0.30		-	2.6
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		—		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		アルミ建具:T-2		5.0	0.61	-	-	
2 界壁遮音性能		—		3.0	0.39	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	-	-	
1.3 吸音		—		3.0	0.20	-	-	1.6
2 温熱環境				1.6	0.35	-	-	
2.1 室温制御		—		1.3	0.50	-	-	
1 室温		—		1.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		—		1.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		—		2.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		—		2.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		—		2.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.5	0.25	-	-	2.5
3.1 昼光利用				4.1	0.30	-	-	
1 昼光率		事務室、昼光率:4.5%		5.0	0.59	-	-	
2 方位別開口		—		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		—		3.0	0.41	-	-	
3.2 グレア対策		—		2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		—		2.0	1.00	-	-	
3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		—		1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に使用		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量		—		3.0	0.34	-	-	
2 自然換気性能		—		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.34	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		—		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		—		3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		—		1.0	0.34	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:2.70m		4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		—		2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		—		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性				4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-		
		1	階高のゆとり	階高:5.0m	5.0	0.60	-	-	
		2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.13	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			床荷重:4500N/㎡	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)				—	0.40	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出			—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮			—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			—	2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =1.22	1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用			—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			BEI _m =0.65	4.5	0.50	-	-	4.5
4	効率的運用				2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		—	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	-	2.8
1	水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水		自動水栓、省水型機器設置	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減		—	3.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	1.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		—	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=10未満	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止		—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		敷地外の熱的負荷の低減を図っている	4.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動		—	-	-	-	-	
	3	悪臭		—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	－	－	○	－	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－
2.4.1 空調・換気設備	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.5 通信・情報設備	2.0	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	－	－	－	2.0	－	－	－	1.0	1.0	－	－	－	－	－
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	－	－	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	－	－	－	－	－	－	1.0	－	－	－	－	－	－	－
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	－	－	1.0	－	1.0	1.0	－	1.0	－	－	－	－	－	－
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.1 材料使用量の削減	2.0	－	1.0	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0	－	1.0	1.0	3.0	3.0	2.0	1.0	1.0	－	1.0	－	－	－	－
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	－	1.0	－	－	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	－	1.0	1.0	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.2.2 砂塵の抑制	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	－	2.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	－	窓の日射熱取得率(η)	－
U値(W/m2K)	－	窓システムU値	－
住戸部分	－	外皮UA値	－
屋根	－	外壁	－
床	－	η AC	－
η AH	－	－	－
屋光率	4.5%	－	－
自然換気有効開口面積率	0.0%	－	－

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	－	/床	シングル	－	ツイン	－
コンセント容量	－	VA/㎡	－	－	－	－	－	－
天井高	2.7 m	－	－	－	－	－	－	－
リフレッシュスペース	－	レストスペース	－	－	－	－	－	－
想定耐用年数	－	年	－	－	－	－	－	－
想定必要間隔	15 年	－	－	－	－	－	－	－
想定必要間隔	10 年	－	－	－	－	－	－	－
想定必要間隔	15 年	－	－	－	－	－	－	－
階高	5 m	－	－	－	－	－	－	－
壁長さ比率	13.0%	－	－	－	－	－	－	－
床荷重	4500 N/m2	－	－	－	－	－	－	－

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	25%	建物緑化指数	0%
空地率	58%	水平投影面積率	9%
地表面対策面積率	19%	舗装面積率	0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	1.22	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	－
－	－	採光を満たす住戸数	－
－	－	通風を満たす教室数	－
－	－	通風を満たす住戸数	－
BPI/BPI _m	非住宅 0.65	住宅	－
太陽光	－	太陽熱等	－
蓄電池	－	－	－

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	－
エコマーク商品	－
自治体指定の特定品目等	－
使用比率	0.0%
オゾン層破壊係数(ODP)	－
地球温暖化係数(GWP)	－
オゾン層破壊係数(ODP)	0
地球温暖化係数(GWP)	3
オゾン層破壊係数(ODP)	－
地球温暖化係数(GWP)	－

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	29%	隣棟間隔指標R _w	1.33
地表面対策面積率	30.3%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%	－	－
見付面積S _b	387㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	70.48 m
基準高さH _b	18.98 m	－	－
緑地	714㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡	－	－